



国際影響評価学会（IAIA）ガーナ大会参加報告

OECC 研究員 **堀内 綾**
Aya Horiuchi

1. IAIA09 の概要

環境アセスメントの分野において最も権威のある「国際影響評価学会（International Association For Impact Assessment (IAIA)）」¹の第29回年次大会が、2009年5月17日～22日にかけてガーナ共和国首都アクラにて開催された。



【開会挨拶（原科 IAIA 会長）】

本大会には、欧米、アジア、アフリカ等各国の環境省、経済協力開発機構（OECD）、世界銀行、国連環境計画（UNEP）等の国際援助機関、国際協力機構（JICA）、ドイツ技術協力公社（GTZ）、コンサルタント、大学や研究機関、NGOの関係者等60以上の国や地域から約500名が参加した。

日本からも IAIA 会長である原科幸彦教授（東京工業大学大学院）をはじめ、JICA 審査部岡崎克彦部長、早稲田大学村山武彦教授、江戸川大学伊藤勝教授、東京農工大学浜田竜之介名誉教授、名古屋大学林希一郎教授、同大学伊東英幸研究員、広島大学清水谷卓研究員、英国リバプール大学臼井寛二研究員等10数名が、発表やポスターの展示を通して積極的に参加されていた。

2. 大会の様相

本大会のテーマは、「Impact Assessment and Human Well-Being（影響評価と人間の福利）」であり、生態系サービスと人間の福利に係る知的ベースの拡充、開発と経済活動の意思決定における生態系サービスの主流化を図るツールの追究に主眼がおかれた。

75以上の多岐にわたるフォーラムやワークショップでは270もの発表が行われ、行政官、有識者、実務者間で活発な議論が行われた。その中で、JICA、世界

銀行、ガーナ環境庁、中国環境保護部とのコラボレーションによるフォーラム「国際協力における環境社会配慮の新たな動向」（JICA 主催）が開催された。フォーラムのはじめに「ODAと持続性：新たな動向」（原科 IAIA 会長）、「新 JICA とセーフガード政策に関する最新情報」（JICA 岡崎部長）、「新興国の経験：中国と環境影響評価の役割」（中国環境保護部環境影響評価司祝司长）について発表が行われ、その後、ガーナ環境庁アロティ長官、世界銀行リントナー上級技術顧問およびレナード氏によるコメントが続いた。質疑応答のセッションでは、援助効果にかかるパリ宣言における「オーナーシップの強化」、「ドナー間の調和化」、「相互説明責任」の重要性、金融危機後の国際援助の動向、公共事業の拡大に伴う環境社会配慮の強化と必要性等についてパネリストと幅広いバックグラウンドの参加者の間で協議が行われ盛況であった。

また、他のセッションでは、「OECD-DAC 開発協力における戦略的環境アセスメント（SEA）の実践レビュー」²、「アジアにおける SEA と EIA」、「途上国における SEA 能力開発の効果」、「アフリカ諸国における環境アセスメントの行政能力の向上（キャパシティビルディング）」、「市民参加」、「企業の社会的責任（CSR）」等に関する最新の研究活動、プロジェクト・プログラムの実施状況の報告、討論が行われた。

3. 今後について

本大会への参加を通して、アセスメントに従事する各国政府、国際援助機関、研究機関、コンサルタント等とのネットワークの拡充、アセスメントに関する世界の動向および知的リソース等の最新情報を得ることができた。今後、OECC が目指すより豊かな「国際環境協力」の活動に少しでも貢献できるよう、アセスメントを切り口としたこれらのネットワーク、知見および情報の共有化を図り、その活用方法、可能性等について考えていきたいと思う。

次の同大会は、2010年4月6日～11日にスイス・ジュネーブにて開催される。³

【謝辞】

IAIA 大会への参加をご支援いただいた OECC 技術部会、ならびに会員、関係者の皆様には、この場を借りて心より御礼申し上げます。

¹ IAIA は、1980年に創設され米国ノース・ダコタ州に本部を置き、110以上の国や地域から3,000人を超える会員によって構成されている学会である。【URL: <http://www.iaia.org>】

² OECD-DAC SEA タスクチームにより、開発協力における SEA 実施状況について各国（ブータン、ガーナ、ベニン、モーリシャス、ナミビア、モンテネグロ、シエラレオネ、ベトナム）の事例を通して報告が行われた。【URL: <http://www.seataskteam.net/>】

³ 第30回 IAIA 年次大会のテーマは「グリーン経済への転換期における影響評価の役割」である。